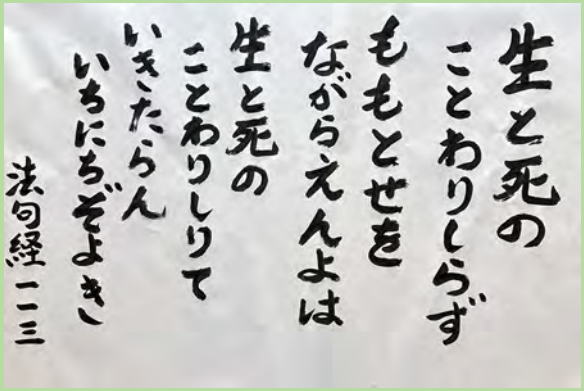
實相寺花園会報

令和六年
十一月一日発行
発行所
臨済宗妙心寺派
陽明山　實相寺
實相寺花園会
〒761-0450
高松市三谷町
1811番地1
TEL087－889－3838
編集発行人
山本文匡
https://www.jissouji.net
第187号



お寺の掲示板

「生死（しょうじ）の問題こそ、仏教の基本的な命題だといってもよいであろう。わが釈迦牟尼世尊も実にこの生死の問題を解決すべく、山へ入られたのである。

『未（いま）だ生を知らず、焉（いずくん）ぞ死を知らん』という言葉があるが『未だ死を知らず、焉んぞ生を知らん』ということも言えるであろう。真に死を直視し、死に徹することによってのみ、生の価値も理解されるのである。」

『法句経　真理のことば』山田無文老師　春秋社

「出演しました」

去る10月21日～25日の5日間、松本紹圭さんのポッドキャス番組「テンプル・モーニング・ラジオ」に出演させて頂きました。

各15～20分程度、小僧時代の出来事から、今後の仏教やお寺についてまで、これまで住職が感じてきた事や今考えている事柄を、色々とお話しさせて頂きました。

お聞きになりたい方は、「Spotify」などのポッドキャストアプリで「松本紹圭」を検索して頂くか、YouTubeでも「テンプルモーニングラジオ」で検索して頂くと、チャンネルを見つけることが出来ると思います。

「当山のお葬式について」

珍しく葬儀が続き、会報の発行が遅くなりましたので、この際、当山で行っている葬儀の内容についてご説明したいと思います。

当山に限らず、臨済宗の葬儀は、概ね次の様になっています。

前半は「剃髪偈～懺悔文～三帰戒」などの授戒作法です。授戒とは、仏弟子となって戒律を授かることで、本来は生前に行うべきものですが、授戒会にはなかなか巡り会えないので、実際には殆どの方がお葬式で授戒しています。

先ず『剃髪偈』を唱えながら髪や鬚を剃ると共に煩悩を離れることを願い、『懺悔文』を唱えてこれまでの行いを反省します。そしてあらためて『三帰戒』をお唱えし、仏法僧の三宝に帰依することを誓います。この時に授かるのが「戒名」で、ここまでの流れは死者も生者も大きな違いはありません。

その後、葬儀の場合は棺を閉ざす鎖龕仏事と棺を運び出す起龕仏事を行います。この辺りは地域によって様々ですが、高松の臨済宗寺院では同時に行っています。近年は導師一人の葬儀が殆どですが、以前はこの時に役僧さんが鉢や太鼓を打ち鳴らしました。これは昔、墓地まで棺を担いで行列する際、鼓鉢を打ち鳴らしていたことの名残です。

後半は導師による「引導」です。「引導を渡す」という言葉もあるように、今では死者を導く教え、転じて最後通告という風に受け取られていますが、元は「誘引開導」が縮まった言葉で、死者・生者の別なく正しい教えに導く意味です。

大愛道比丘尼が亡くなった際、釈尊が人生無常の教えを説いた『増一阿含経』の故事もありますが、中村元の『佛教語大辞典』では、唐代の百丈禅師や黄檗禅師からはじまると解説されています。

現在、死者に対する引導は真宗以外の各宗派で行われていて、その内容は宗派によって異なる様ですが、禅宗では古来より「法語・香語」と呼ばれる漢詩形式で教えを唱え、お香を供えます。

葬儀の宗教的意義としてはこの「引導法語」が最も重要な部分で、その形式は七言絶句・八字称・四六文・漫句・落句からなります。形式だけでなく、禅や仏教の教えも踏まえつつ、季節や故人のお人柄に相応しい法語を作るのはなかなか大変なのですが、現住職は就任以来、故人一人一人にそれぞれの法語を作成し、又八年前よりご遺族にも配布し説明して来ました。

地味ですが、法語を自作しない（出来ない）僧侶が殆どの昨今、こうした葬儀に対する真摯な取り組みは、他に類を見ないと思います。